96号
g-kawaraban@googlegroups.com
学園町 かわら版
購読無料・各戸配布／隔月刊行
発行人 / 学園町自治会会長・人見良一
投稿・連絡先 / 学園町2丁目8番地14号
電話・FAX/421-2336
企画編集 / 学園町自治会広報委員会
編集長 / 浜名 純

言葉を大切に、環境教育に取り組む
古矢美雪「五小」新校長に聞く

今春、東久留米第五小学校校長に古矢美雪さんが就任しました。東久留米が大好きだという新校長。どのように子どもたちを育てていくか、インタビューしました。

――どんなきっかけで小学校の先生になったのでしょうか。これまでの経歴なども含めてお聞かせください。

古矢　名古屋市で生まれ、小学校6年生の時に父の転勤で東京都品川区に移住、都立日比谷高等学校を卒業し、東京学芸大学の中学校高等学校の国語の専門課程に入学しました。最初は中学校か都立高校の国語の先生になりたかったんです。でも大学の隣にあった付属小金井小学校の子たちがとてもかわいかった。小学校の先生になりたいと思い、大学3年生の時に小学校の先生の免許が取れるカリキュラムを受講して小学校の教員採用試験を受けて、小学校の先生になりました。

振り出しは平成2（1990）年、西東京市立（当時は保谷市立）の本町小学校でした。大学の2年生の時に清瀬市に転居したので、近い所でした。その次が清瀬第九小学校。そこが統廃合で閉校になり、新しくできた清明小学校で開校にかかわりました。そのあとは東久留米第八小学校。ここも閉校になり、第三小学校に異動し、その後東京都教育委員会を経て東久留米第一小学校で副校長を5年勤め、次いで第十小学校校長を5年やっていました。

正しく美しい日本語の担い手育てたい

――生徒の指導で一貫して気をつけていることは、どういうことでしょうか。

古矢　担任した子どもには、言葉づかいや言葉選びなど言葉に気をつけて指導してきました。それは心の教育や人権教育に繋がることです。第五小学校でも人権教育を一番の柱にしています。言葉を通して子どもを大事にする。言葉の暴力には最も気をつけさせたいし、情操豊かになるためにも本をたくさん読んで、言葉をたくさん知って、正しい美しい日本語の担い手を育てたいなと一貫して思ってきました。

人権尊重と環境に力を入れた教育を実践

――どういう教育目標を掲げ、どういう学校像を目指すのか。就任の抱負をお聞かせください。

古矢　今、話したようにまず、心の教育・人権教育を充実させたいと思います。言葉の使い方、「暴力・暴言、しない、させない、ゆるさない。思いやり、笑顔溢れる学校」です。それがあってこその学習指導であり、身体づくりであると思います。もう一つは、来年2月に、市内の全小学校に向けて、本校がやっている理科教育と生活科教育を研究発表します。理科教育は今、東京都教育委員会が大変力を入れており、東久留米市では本校だけが選ばれています。私は東久留米が大好きです。きれいな流れの久留米川や落合川があり、平成の名泉100選に南沢湧水が東京都でただ一つだけ選ばれています。そういった意味で、環境教育も取り込んだ、持続可能な社会を目指すエスディージーズにも繋がる発表にしたいと、全教員で頑張っています。

――日々子どもたちと接していて、一番気をつけているのはどんな点ですか。

古矢　毎朝、校門の前に立って〝おはようございます〟の挨拶をしています。その出会いが大切です。怖い顔で挨拶してもよくないですから、笑顔で挨拶するということが大切です。マスクで顔の下半分が隠れていますが、身振り手振りででも子どもたちに伝えたいと思っています。

開かれた学校として 地域と共に歩みたい

――今、昔と違って子どもの安全をいかに守るかということが問題になっています。その点についてのどのようにお考えですか。

古矢　今は社会に対し「開かれた学校」を目指すようになっています。その一方で、防犯対策はしっかりしなければいけません。ウェルカムということで皆さんを迎えつつ、防犯には徹底して気をつけ、同時に登下校の安全を確保したいと思っています。学校は、学校単体では存続し得ません。地域の皆様に支えられて、可愛がられてこその学校だと思っていますので、コロナの感染状況を見ながらですが、こちらからも積極的に地域に子どもたちと出かけていって、地域の勉強をさせていただこうと思っています。学園町自治会の皆様と対話を重ねながら、どうしたら子どもたちに「より良い育ち」を提供できるのかを考えていく学校長でありたいと思っています。

★編集後記　小さい頃から読書が大好き。両親が毎晩本を読んでくれ、小学校の時は図書館の本を全部読もうと思ったとか。それが今の言葉を大切にする姿勢につながった。十数年前、息子さんがまだ小さい頃、「体力づくりで走りたい。お母さんも付き合って」と言われ、ランニングを始めたとのこと。息子さんが大きくなると一緒に走ってくれなくなったけれど、毎晩ランニングを続けています。音楽が趣味。ピアノを17年間習っていたのをはじめ、料理教室の助教員の免許まで持っている、とのことでした。

〝学園町らしさ〟の継承と保存について　その②

前号では玄田悠大さんへのインタビューを掲載しました。今号では、インタビュー終了後に行った同席した住民の皆さんと玄田さんとのフリートーキングの内容をまとめました。編集に当たっては、「ある意図をもって筋道を立てて、論旨を展開することを避け、アトランダムに皆さんの声を拾いました。自由闊達、縦横に語られたコメントの行間から、逆に学園町の現状・佇まいや将来の課題が浮かび上がってくるのではないでしょうか。

学園町には、当時同じ社会的階層の人たちが集まった。それによる安心感があり、意識の共有もできやすかった。同じ階層にいる人には温かい目で見る。プチブル的中産階級とも言えます。バブル崩壊以降の経済構造の変化は、これから町に入ってくる住民の社会的階層にも大きな変化が起きるだろう。そこに存続の危機もある。

最近は、学園町にお住まいの高齢者が亡くなったり、戸建ての住宅を維持することが難しく、ひばりが丘団地や施設に移る人が多くなりました。庭の手入れもできなくなりますから。日本の税制のシステムが変わらない限り、跡地が小さく区割りされ何軒も家が建つケースが増えることでしょう。町自体が変わらざるを得なくなるのでしょうか。「住民の高齢化」は、大きな問題です。

スペイン風邪が日本に上陸したのは１９１８（大正7）年。１９２１年まで猛威を振るい患者２３８０万人、死者３９万人を数えました。１９２３年には関東大震災が起きています。２つともほぼ１００年前の自由学園創設時の頃の出来事です。自由学園が学園町に移転したのは１９３４年。スペイン風邪の蔓延から逃れ、地盤の安定した武蔵野台地に住むためだったということもあるのでしょうか。日本では結核患者のアフターケアを主とした療養所をサナトリウムと呼ぶようになりました。当時の建築には開放的なサナトリウムを意識しているデザインがあったとも言われています。パンデミックを空間的に工夫して避けるという意識もあったようです。今、1世紀を経てコロナの感染拡大と、それに伴うリモートワークの時代になりました。地域が、新しさを持って見直されるということにもなると思います。

歴史があり、文化財的価値があるから維持するのではなく、繋げていく、繋がっていくことに意味があります。地域の考え方を共有している人がここに住むということに意味がある。文化的な意味でも日本にとって誇りになるものが継承されていくのではないか。

我々は自由学園の卒業生でも何でもないのに、自由に学園の事務室を使わせてもらっている。近年、防災面も含めて「地域に開かれた学校」ということが言われているが、こんなに住民に開かれている例は他にはないだろう。

これから、この町の住民として入ってくる人たちは、どんな町なのかを明文化してそれをちゃんと伝えることをしないといけない時代になってきたということですね。改訂された学園町憲章もその一環と言えます。

若い世代でも地域とのつながりを生活の中で必要としている人は必ずいます。そういう方々が、このコミュニティと繋がって自分たちの生活と接点がある暮らしをしていけるような仕組み作りも大切ですね。

学園町は、一戸建ての町です。一戸建てを基準にして成り立っていたのだけど最近は、アパートもできてきた。若い人の気持ちをうまくくすぐることができるといいですね。パンデミックが起こり、終身雇用が崩れて来て、気軽に転職をするような時代になってきた。仕事が自分の人生ではないと考えている若い人が増えてきて、自分が住んでいる地域をどう考えるかという目線に立って、地域で何か始める人がでてくるかもしれません。そうだといいですね。

20年前にこの町に移って来ました。自由学園とは関係ありませんでした。不動産屋を介して、ここに住んでいる方の一角を購入したんですけど、その住んでいる方と面談をしてOKじゃないと売らないと言われました。

かなり広い土地を持たれている方がいて、相続で売らなければいけないことになったのですが、「デベロッパーには売らない。何年かかるか分からないけど、戸建てとして一区画で住んでくれる人にしか売らない」と言っていたのが印象的でした。町を守る気概を感じました。ここはそういう場所なんだ。住民一人ひとりがそういうことをよく知って住まなきゃいけないんだなと思いました。次の世代の子どもたちにこの町はこういう町だと伝えることが必要だと強く思いました。

歳を取って売らなければいけなくなった時には、この町のことを理解してくれている人に売りたいなという気持ちになります。

今の税制では１０か月以内に相続の仕方を決めなくてはいけませんが、ここに住みたいという人を探す猶予期間がもうちょっとあるといいのですが。そうすれば街並みも守れたかもしれません。

昔、吉村順三さんの建物もありましたが、敷地が売りに出され細分化されて何軒かの家が建ってしまいました。遠藤新さん設計の家が少し残っていますが、それを文化財登録することで、地域として価値が共有できるようなことができないのでしょうか。

ＮＰＯの方たちに、この建物はこうだということを評価していただくことはとても価値があります。屋敷林研究会というのがあり、東久留米の古民家やその周囲の屋敷林を調べてオーナーの方と交流しています。それによりオーナーも価値を認識し、守らなければいけないという気持ちが強くなってくると言えます。

実際に外部の視点で、こういう地域の価値を客観的に評価していただくというのを積み重ねることは意味があると思います。外部から来て住もうとする人に、こういう地域ですと、しっかり伝えられるかもしれません。

地球二周の船旅・乗船記

篠宮　晴子

びびりながら準備

ベネズエラでは、ギアナ高地のカナイマに行った。そこで滝の裏側を歩くオプションを選んだ。これに参加するための準備が半端なく大変だった。

まず前もって船の中でマラリアの予防接種を受けなければならない。マラリアと聞いただけでびびる私。その上にくれぐれも蚊に刺されるなという。そう言われても刺されるときは刺される訳で。虫よけスプレーも持った。もう準備万端、のはずであった。

注意事項オンパレード

小型飛行機に乗りロッジのある村へ向かい、木彫りの船で滝のある場所へ渡り、山道を歩く。

この森の先に滝があるという所での、現地の人の説明にひるんだ。

「前日雨が降って地面が滑りやすくなっていますが、決して周りの木を触らないで下さい。かぶれます。またこの土地には腹の赤いカエルがいます。触らないで下さい」

私は無事、滝にたどりつけるのだろうか。目の前には下り坂の道。滑って転んで、思わず近くの枝を握りしめ手はかぶれる。そこに腹の赤いカエルが現れ驚いてよりによって触ってしまう。転んだはずみで滝に濡れないようにビニールをかぶせてあったカメラが壊れる。とまあ、ろくな想像も浮かばない。軍手ははめた。虫除けスプレーはかけた。肌はこれ以上覆えないくらい覆った。出来ることは全てやった。幸運を祈る。

「滝の裏を通り、びしょ濡れ」

爆音の中を進む

やっとこさっとこで滝に着く。ちっちゃい滝である。大人の身長ぎりぎりの高さ。しかしあなどるなかれ、その水量、とどろく爆音。バケツをずーっとひっくりかえし続けなければこの音にはならない。右側が土壁、左側は流れ落ちる滝、その間を歩いていくのだ。聞こえるのはドーッという滝の音だけ。上着を脱ぎ、下に着てきた水着姿で靴からサンダルに履き替え、滝の脇を進む。

キャーッ、楽しい。そこはもうアミューズメントパークである。爆音に対抗するには叫びが必要なのだ、私の場合。滝のしぶきでびしょ濡れだが、水着なので問題なし。一つの滝の幅は６ｍ位、それが６本ほど続く。たまらん。

どこに来ちゃったのだろう

滝の上に出た。嘘のように静かである。だだっ広い平らな大きな岩の表面を水がどんどん流れ、さっき通った滝つぼへと落ちていく。爆音は下の方に聞こえる。

暮れてきた。山を下りる。大騒ぎしていたけれど、小さな山だったのだ。はるか遠ーくの方にテーブルマウンテンの上線だけが見える。他に見えるものはなんにもない。別の惑星に来ちまったようで心臓がギュッと縮む。私、地球に帰れるよね。

惑星のホタル

下り坂の両側には雑草が生えて開けている。その向こうに高さ２ｍくらいの木々が森を作っている。その森にポッポッと光るものが。３０個くらいの集まりがあっちにもこっちにも。ホタルだ。静かな歓声があがる。子供のころ見て以来だ。懐かしかった。哀しいくらい美しかった。心に灯がともった。もう大丈夫だと思った

南部地域センターからのお知らせ

★なんぶまなぶシリーズ

《１》「ヨガ教室関係①～⑤」

①「夕方YOGA 教室」(金曜クラス)
8月12日・19日・9月2日・9日・16日　17：30～18：30参加費５００円。定員10名、講師：ヨガインストラクター、健康運動指導士中村陽子

②「ヨガ男塾!」
8月12日・19日・9月2日・9日・16日　19:00～20：00

③「日曜ヨガ教室」
8月21日・9月4日18日
1部10：00～11：00
2部13：00～14：00

④「健康体操」
8月21日・9月18日
1部11：30～12：30
2部14：30～15：30

⑤「夕方YOGA 教室」(火曜クラス)
8月23日・30日・9月6日・13日・20日・27日　17：30～18：30

※上記②、③、④、⑤の【参加費】、【定員】、【持ち物等】、【講師】については、いずれも①と同一。

《２》ヨガ教室以外のイベント

★夏休み特別企画
(子ども未来講座）親子で考えるわたしの夢、シゴト、お金
8月27日(土)定員10組20名
対象小学5・6年生と保護者・参加費無料・講師ファイナンシャルプランナー桂宗一郎

★「バクさんとその仲間と音楽と」
8月28日(日)・9月25日(日)開場　13：00・13：15～15：00
定員40名参加費５００円

★60歳からの音楽で脳トレ体操
8月29日(月)・9月26日(月)
10:15～11:30定員10名参加費１０００円

★なんぶおしゃべりサロン
9月4日(日)・10月2日(日)
13：30～15:30参加費１００円
定員10名対象地域にお住いの高齢者

★ふれあいコンサート
日本の歌・イタリア／ドイツの歌
9月11日(日)12：30開場13：00開演・定員60名入場料５００円

★ベビーマッサージ
9月12日(月)10：00～12：00
参加費：２０００円（オイル代込み）定員４組、生後2か月～1歳前後の赤ちゃんとママさん・妊婦さん
・持ち物　バスタオル・飲み水

★妊婦さんとママのためのこころとからだのセルフケアレッスン
9月26日(月)10：00～11：30
定員8名参加費５００円妊娠中の不安な気持ちを共有したい方。子育ての悩みを共有したい方。マタニティライフをナチュラルなケアで過ごしたい方

※各イベント問合せ
南部地域センター
（指定管理者株式会社セイウン）
042-451-2021
Higashikurume_nanbu@s-seiun.co.jp

東海道五十三次完歩しました　その⑨

2丁目　藤田義子

●第17回
4月13日9km（19558歩）
4月14日12km（22065歩）
岡部宿―藤枝宿―島田宿―大井川川越遺跡

岡部道の駅の広場でバスをおりると、四列に並んで人数を数える。その後はバラバラに広がってリーダーの声掛けで軽く準備体操をしたら、一列か二列になって歩き始める。この流れはもう皆の身について体操をするのは朝と午後の出発の時だけだが、神社仏閣を見学、参拝したり、お手洗い休憩の後なども何の指示が無くても自然にこの列ができる。

私はいつもリーダーのすぐ後ろにつくことにしていた。この日もいつものように歩き始めたが間もなく道脇の側溝の穴に爪先をとられて転んでしまった。まわりが驚くほど派手に転んだので行列は止まってしまい、リーダーがすぐ横の家の庭にあった水道でハンカチを濡らしてぶつけたおでこを冷やしてくれた。周りの人たちからも消毒綿、絆創膏などいろいろな衛生用品が手渡され私はただぼーっとなっていたが、後になって思い出したのは旅に出る時はこのような準備をするものなのかと。

東海道21番目の岡部宿は建久五年（1194）頼朝が京と鎌倉を結ぶ鎌倉街道を整備し東海道に続くルートを開いて岡部宿を作ったものだとか。小さな宿だが人の往来は多く、のちには大名行列の時など隣の藤枝宿から寝具や道具を借りる事もあったそうだ。天保時代に建てられた大旅籠、柏屋は歴史資料館となっているがその敷地面積は大きく、母屋だけで百坪とか。

藤枝宿に入り、東街道より少し南には家康が亡くなる直前、鯛の天ぷらを食べて食あたりを起こしたと言われてぃる田中城があると聞いた。藤枝宿は他の宿場のように一つの町や村単位で宿場になったものではなく幾つかの郡の一部が親村に属しながら宿駅の役割を担ったそう、京から江戸へ荷物を運ぶ上傳馬と江戸から京への荷物を運ぶ下傳馬の二つの問屋場もあり塩の産地だった相良に通じる商業地としても栄えたようだ。今も多くの和洋菓子屋がありスイーツの町と言われ、南アルプスの伏流水を使った四つの酒蔵もあり銘酒の里とも言われている。

島田宿にはいる。島田宿は大井川の増水により江戸からの旅人の足止めなどで賑わっていた。大井川は船も橋もなく人による徒渡し（かちわたし）のみの川で江戸側の島田宿は川越（かわごし）でも、増水で川止めになっても人が溢れ、宿が満室になって一般の家に泊まらせる事もあったそうだ。徒渡しの料金は川越を管理する川会所の役人が毎日水深を計って定め、人足の腰までの深さで肩車の時は68文（元禄9年当時約1700円程度）、四人でかつぐ輦台を使えばその4倍、水深が人の脇の下まで来ると川止め。旅人は川会所で川札を買いそれを人足に渡して川を渡り、人足はその札を札場で換金するとぃう流れだ。多くの俳人や絵描き、踊りの師匠などの長い滞在により独自文化も生まれ芭蕉が長者の家で句会を開いたと言う記録も残っている。

私は大井川川越遺跡に立った時400年の時を飛び越えてしまった。水をくぃ止めるために作られた石を積み上げた「せき跡」の間に立つと大井川を脊に江戸に向かって300mほどの広い道が殆ど真っすぐに延びて両側には軒の低い「せがい作り」の昔の家が不規則な間隔で並んでいる。

右手前から一番宿、五番宿、向かい合って左手は七番宿小道を挟んで川会所、隣には二番宿、十番宿と松の木を挟んだりして不規則に札場、仲間の宿、三番宿、荷縄屋、そば屋を挟んで六番宿向かいに十番と言うように。それらの家の中には裃をつけた二人の等身大の侍が川会所の中に座っているように五番宿では三人の褌姿の若者が出番を待っている。周囲は音も人の気配も感じられず、遺跡の世界にはまりこんでいた。気が付いて河原にある島田市博物館に戻り流域の歴史や文化などをみた。

屋外展示場には昔使っていた川船などもあったが、面白かったのは日本髪の島田髷の展示があった事、ここが発祥の地と書いてある。七十数年も昔、十八歳の正月に私も島田髷を結つた事がある。髷の事はともかくその夜、着替えの時に襦袢の下に頭からぬぐ毛糸のチョッキを着ていたのを見つかって母にひどく叱られた。チョッキの前をハサミでジョキジョキ切り開かれてやっと寝巻に着替えられたのを思い出したのだ。広い河原の駐車場がゴール、東京へ。

自由学園からのお知らせ

■自由学園幼児生活団幼稚園

【夕涼み会】
8月26日（金）
第一部 16:30～（20組）
第二部 17:15～（20組）

【入園説明会】
9月8日（土）10:00～11:00
10月1日（土）10:00～11:00

【体験会】
9月21日（水）10:00～11:00

■自由学園初等部

【アフタースクール説明会】
8月27日（土）10:30～11:30

【入試説明会】
9月17日（土）9:30～11:00

■自由学園男子部・女子部

【校長と一緒に学ぼう】
8月27日（土）夜の開催
8月28日（日）朝の開催

■自由学園最高学部
第5回リベラルアーツ学会
9月10日（土）14:00～16:20
オンライン開催

※上記催しについて、全てお申し込みは学園HPからお願い致します。詳細は自由学園のホームページに掲載しております。

※お問合せ先：自由学園広報本部
TEL：042-428-2122
e-mail：kh@jiyu.ac.jp
URL：https://www.jiyu.ac.jp

私立南中学校が創立50周年

東久留米市立南中学校が、創立50周年を迎え、7月7日、記念式典が挙行され、人見良一学園町自治会長が来賓として出席しました。

同校は、1972（昭和47）年、東久留米市4番目の公立中学校として開校。現在は477名（男252名、女225名）の生徒が学んでいます。『50年記念誌』の冒頭で、小川高弘校長は『愛・勉学・自主性・健康の教育目標は、五十年を経た現在でも脈々と受け継がれています。これからの南中の生徒には……優しさや思いやりを忘れずに地域においても豊かな社会づくりに貢献することを期待しています』と述べています。